

# 2024 年度「感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座」 講義概要

◎前期

第1日 2024年10月19日(土)

第1時限 (13:00~14:25)

『VPDの観点からの感染症学』 兵庫県立こども病院 笠井正志

講義概要：笠井先生からのメッセージ

小児感染症専門医が、ワクチンで予防できる感染症の基礎知識と最新の知見を解説します。感染経路、発症機序、重症化リスク、ワクチンの種類と効果、副反応、接種スケジュール、保護者への説明ポイントなどを網羅し、感染管理認定看護師が現場で実践できる知識とスキルを提供します。特に小児における感染症の特徴や注意点、保護者への効果的な情報提供方法に焦点を当てます。

第2時限 (14:40~16:40)

『災害時の感染対策』 長崎大学病院 泉川公一/金沢医科大学病院 野田洋子  
ディスカッション 座長 日本看護協会 渋谷智恵

講義概要：座長の渋谷先生からのメッセージ

大規模災害時は医療機関や高齢者施設なども被災します。ライフラインが被害を受け平時のような衛生環境が失われたとしても、そこには継続すべき医療や看護、介護があります。また避難所では被災した住民が集団生活を送り、衛生環境問題に加えて集団感染のリスクも発生します。こうした状況下において私たち ICN は患者や利用者、被災者などを守るために何ができるのか。医師、ICN の立場でお二人にご講演いただき、それを踏まえ、大規模災害時に ICN が果たす役割について考えたいと思います。

第3時限 (16:55~18:20)

『臨床微生物学』 前橋赤十字病院 林俊誠

講義概要：林先生からのメッセージ

臨床微生物学はしばしば難解に感じられますが、本講義では「なぜ菌名が大切なのか」、「主要な菌とその性質」、「耐性菌の基礎知識」の3つのポイントに焦点を絞ってわかりやすく解説いたします。

これにより、感染管理認定看護師が臨床現場で医師や薬剤師だけでなく、臨床検査技師とコミュニケーションを取りやすくなる狙いがあります。

例えば、バンコマイシン耐性腸球菌の何が怖くて、怖くないのほどなのかがわかります。

このように、微生物学の知識を実践的に活用できるようサポートし、患者ケアの質向上に寄与することを目指します。

第2日 2024年10月20日(日)

第1時限 (9:00~12:00)

『サーベイランス① 疫学・統計学』 国際医療福祉大学大学院 坂木晴世

講義概要：坂木先生からのメッセージ

統計学は苦手ですか？

データの解析は難しく感じますよね。検定や費用対効果など、学校では習ったけれど、いざ手をつけようとする、少し自信がなくなっているのに気づいたりします。

本講義では、ICNが日常的に扱っている数値データを用いて、臨床で使える分析手法について解説します。統計学が苦手な方も大丈夫。苦手を得意に変えていきましょう。

第2時限 (12:55~14:20)

『疥癬』 東京品川病院 牧上久仁子

講義概要：牧上先生からのメッセージ

現在日本で使用されている疥癬治療薬は大変効果が高く、診断がつけば治療は容易ですが、集団感染の相談や報告はなくなりません。

今回は特効薬のある時代の疥癬対策のピットフォールについてお話ししようと思います。

第3時限 (14:35~16:00)

『輸入感染症』 大阪大学 忽那賢志

講義概要：忽那先生からのメッセージ

COVID-19が5類感染症になり1年以上が経過し、海外から日本を訪れる外国人観光客はコロナ前を上回るほどになっています。

2014年のデング熱の流行のように、海外から感染症が持ち込まれ国内で広がるということが今後も起こり得ます。

輸入感染症の診療において重要なのは、海外渡航歴を適切に聴取すること、必要に応じてただちに感染対策を行うこと、致死的な感染症を見逃さないこと、などです。

◎後期

第1日 2025年2月15日(土)

第1時限 (13:00~14:25)

『標準予防策と感染経路別予防策』

板橋中央総合病院 坂本史衣

講義概要：坂本先生からのメッセージ

新型コロナウイルス感染症のパンデミックがきっかけとなって、標準予防策と感染経路別予防策が再構築されています。2025年2月時点の最新情報をお届けします。

第2時限 (14:40~16:05)

『抗菌薬の適正使用』

東京医科歯科大学病院 具芳明

講義概要：具先生からのメッセージ

療機関における薬剤耐性（AMR）対策では、適切な感染管理・感染予防策と合わせ、抗菌薬の適正使用が重要となります。抗菌薬適正使用を進めるため、多くの医療機関で多職種チーム（Antimicrobial stewardship team: AST）が活動しています。抗菌薬適正使用が重視されている背景や基本的な考え方に加え、効果的なAST活動のあり方や、抗菌薬適正使用における多職種連携について解説します。

第3時限 (16:20~17:45)

『コミュニケーション』

オフィスオランジェ 正岡紀子

講義概要：正岡先生からのメッセージ

マスクをしている状況でのコミュニケーションは非常に難しく、患者さまは医療従事者の「話す内容」だけではなく、相手の表情・声のトーン・動作などから心に大きな影響を受けます。感情の変化を測定できる脳波計を使用した《医師と患者による会話の実験結果》をもとに「患者さまが安心できるコミュニケーションとはどのようなものか？」について体感していただきながら皆さんと一緒に楽しく考えていきたいと思えます。

第2日 2025年2月16日(日)

第1時限 (9:00~10:25)

『手指衛生』

久留米大学大学院 渡邊英之

講義概要：渡邊先生からのメッセージ

COVID-19の流行を経験しましたが、多剤耐性菌対策はそれほど改善しておらず、VREについてはむしろコロナ前より増加しています。

前職の行政時代に経験したVREアウトブレイクを振り返り反省を交えて述べ、院内感染対策の基本となる手指衛生の改善のために行動科学の導入を提案します。

行動科学は難しいものではなく、「多くの人間はこのように考え、このように行動する」という学問であり、臨床現場に大いに役立つものです。

第2時限 (10:40~12:05)

『サーベイランス② VAP/ VAE サーベイランス』

三菱京都病院 嶋雅範

講義概要：嶋先生からのメッセージ

米国疾病管理予防センター (CDC) は、2013年に従来の人工呼吸器関連肺炎 (VAP) サーベイランスを人工呼吸器関連事象 (VAE) サーベイランスに移行しました。この変更は、VAEが患者の予後とより強く相関し、判定が簡便であることや、電子化の可能性が期待されるためです。しかし、VAEサーベイランスには、従来のVAPサーベイランスと比較した際の結果の違いや、発生率の解釈が曖昧である点、また人工呼吸器の管理方法に大きく依存する点などの問題も存在します。

本講義では、VAEサーベイランスを適切に行うことができるよう、VAEの特徴をまとめ今一度VAE低減に向け何をすべきか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

第3時限 (12:55~14:20)

『サーベイランス③ サーベイランス結果のフィードバック』

箕面市立病院 四宮聡

講義概要：四宮先生からのメッセージ

医療関連感染サーベイランスのフィードバックは、単なるデータ収集にしないための最も重要なプロセスです。しかし、他の業務や複数のサーベイランスを並行している場合、効果的にフィードバックすることは時間的にも効率的にも工夫が必要です。本講義では、具体的な例やデータを基にフィードバックを効率よく行い、相手に「刺さる」ようにするためのヒントについてご紹介します。

第4時限 (14:35~16:00)

『感染制御をめぐる最新のトピックス』

山形大学医学部附属病院 森兼啓太

講義概要：森兼先生からのメッセージ

COVID-19の流行が制御された今、薬剤耐性菌やデバイス関連感染、手指衛生など我々が取り組むべき医療関連感染やその対策は山積しています。ここ1年の海外の学会の様子やCOVID-19以外の感染制御の最新情報を本講義でお伝えします。

皆様のこれから1年の感染対策活動の方向性を考える材料として頂ければ幸いです。